

## 2019 年度入学式:学長式辞

新入生の皆さん、ご参列のご家族の皆さま、本日は、ご入学、誠におめでとうございます。

日本体育大学を代表して、心から歓迎の意を表します。

本学は、その母胎を 1891 年に設立された「体育会」とし、このとき、創設者である日高藤吉郎が掲げた、「體育富強之基」(「体育は、富国強兵の基本である」)を建学の精神としています。

やがて、1949 年の日本体育大学体育学部設置に際し、国際平和の実現に寄与する国づくりを念頭に、その精神は、「体育は肉体を、より強靱に、そして豊かにする基礎である」と解されるようになりました。

さらにその後、本学がこれまで、一貫して、体育・身体活動・スポーツを基軸に、全ての人々の願いである“心身の健康”を育み、あわせて世界レベルの優秀な競技者や指導者の育成を追究してきたことに鑑み、今日その建学の精神は、「真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠である」、との現代的解釈が加えられています。

とりわけ、1964 年の東京オリンピックは、本学がトップアスリートの養成に力を注ぐ契機となり、以来、日本のスポーツ界の国際競技力向上に大きく貢献しています。

そして、その成果は、オリンピック・パラリンピックのメダル 133 個が、本学関係者の手によってもたらされ、世界に誇るべき実績として、日体大を燦然と照らし続けます。現在、さまざまなスポーツで優れたアスリートや卓越したコーチたちが、本学学生、教職員として多数在籍し、大きな強みとして、他の大学の追随を許しません。

しかし、日本体育大学が目指す姿は、ここだけにとどまりません。

本学のフィールドは、地球上のあらゆる場所と人びとに拓かれているからです。例えば、乳幼児から学童、青年や成人、さらには高齢者まで、人の一生に寄り添い、健やかな生涯の設計・支援や、あるいは、地球規模の思考と地域視点の行動、いわゆる「グローバルな発想」に基づき、活力に満ちた国際社会・地域社会の創生・構築など、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」のために、日体大生、卒業生がその活躍を期待されるシーンは、実に多様性に富んでいます。

ところでいま、皆さんはどんな想いを胸に、この入学式を迎えていますか。それぞれの誓いや目標はどのように立てられ、それを実行するための計画は、どう描かれているでしょうか。

自らの「夢」や「希望」、その「志」を改めてここで、確認してみてください。

中学生になって本格的に体操競技を始めたわたしには、「美しい体操で、多くの人びとを魅了し、オリンピックで金メダルを獲る」、という大きな「夢」がありました。

わたしたちが、何かを成し遂げようとするとき、まず取り組まなければならないのは、入念な『準備』です。『準備』を万全に整えたら、次はいよいよそれを、『実行』に移していきます。いざ、『実行』してみると、思わぬ失敗や、想定外の課題が浮き彫りになったりします。この時、自らを省みる、『反省』が求められます。

特に、この『反省』がなければ、さらなる進歩は見出せません。さらに、次の『準備』に活かすことができなければ、何も意味がないのです。『反省』を次の試合の『準備』、練習に繋げ、ひとつひとつ丁寧にその課題を克服していくと、大切な試合で失敗やミスは少なくなり、『反省』の輪も必ず小さくなっていきます。『準備』と『実行』の輪をより大きくつくりあげ、『反省』の輪を可能な限り小さくすることで、理想の結果が生み出されるのです。

1984 年のロサンゼルスオリンピック代表に選ばれたわたしは、大会直前の強化合宿の中で、実際の試合に向けた本格的な『準備』の輪を描き始めました。練習では来る日も来る日も、オリンピック本番での演技を具体的にイメージしながら、何度も繰り返し試し、万全の態勢で試合当日を迎えました。結果、その日は、『準備』の段階と同じくらい、大きな『実行』の輪を描き、理想とするパフォーマンスを発揮することができました。体操競技を始めた頃からの「夢」であった、オリンピックの表彰台で、わたしは君が代を聴くことができたのです。

オリンピックで金メダルを獲得するために、なにをどこまで、『実行』すれば良いのか、真剣に考え、練習という『準備』を幾重にも積み重ねました。そして、自らの努力次第で、いかなる結果をも導き出すことが可能なのだと確信しました。

先日、引退を表明したメジャーリーガーのイチロー選手も自身の野球人生を振り返り、「ひとつひとつの積み重ねが自らを越えていく」と、『継続』の大切さを語っていました。

さあ皆さん、今日から、この日体大で、それぞれの「夢」や「希望」を叶えるべく、『準備』『実行』『反省』の輪を、「急がず、休まず、忍耐強く」、何度も何度も繰り返し、描いてみてください。もし、その途中で、新たな「夢」や「希望」に巡り会うことができたのなら、その変化も大いに受け容れてください。大きく視野を拓け、自らの「夢」や「希望」を素直に、そしてゆっくり時間をかけて描いていくために、与えてもらった貴重な時間です。

これからの4年間、必ずしも、思い描いた通りの学生生活が送れるとは限りません。悔しいことや恥ずかしい思い、様々な経験を重ねていくことになるでしょう。学業や対人関係、就職活動の不安、競技成績の不振など、それなりに辛い、苦しい状況に幾度となく置かれることもあるでしょう。しかし、丹念に『準備』を重ねていけば、それを乗り越えて、「夢」や「希望」に大きく近づいていけるはずです。

すぐ傍には、同級生、先輩、我々教職員がいます。また、図書館をはじめ、学生支援センターや国際交流センター、健康管理センターなど、皆さんの学生生活をあらゆる側面からサポートする体制も十分に整っています。キャンパスのあらゆるところに、問題解決のためのヒントやアドバイスがあり、『準備』『実行』『反省』の輪を描く大きな手助けになってくれることでしょう。

「夢」と「希望」を持つことは、人生を豊かにしてくれます。「夢」や「希望」の無い人生は空虚のように感じてしまいます。どんなにつらい環境にあっても、それを乗り越えようと努力を続けていくことで人生は拓かれ、その先になりたい自身の姿や状況がより一層、鮮明にみえてくるのです。

今日この日を迎え、心地よい満足感と充実感を得ていることだと思いますが、同時に緊張感をもって、改めて自身の将来を見据えてください。そして、本学での日々が、皆さんの未来を切り拓く大切な一步一步であることを強く意識してください。

4年後ここで、卒業式を迎えたとき、「日体大にきて良かった」、そう皆さんに思ってもらうことはもとより、ご家族の皆さまにも同じように実感してもらえることを願うばかりです。

それぞれの「夢」や「希望」をしっかり、その手で掴み取るためにも、高い「志」をもって、何ごとにも果敢にチャレンジしてくれることを強く望みます。

皆さんの新生活とともに、まもなく新たな時代「令和」が幕をあけます。ひとりひとり、その初志を全うし、最も美しい個の華を咲かせてください。

ひとりひとりの「自己実現」に向け、我々教職員は一丸となって、そのための環境を整えていくことをお約束します。

これからの皆さんの頑張りを楽しみにしています。本日は、本当におめでとうございます。

2019年4月3日  
日本体育大学  
学長 具志堅 幸司